

私たちの健康

田 谷 利 光

ひさしく新聞小説など読まなかつた私だったが、昨秋から始まつた朝日朝刊の「複合汚染」(作・有吉佐和子)をみて、驚いた。

それは、われわれ農村医学者らの研究をくまなく紹介しているからである。参院選に応援にのり出した彼女が、次第に日本列島をおおう食品公害の現実を目をひらき、科学の網の目がまだとらえ得ない汚染の全容を、作家の直観と精力的な取材によつて浮きぼりにしてゆくキャンペーン小説である。複合汚染というものが私たちの健康のひずみをつくり、異常出産の増加となつてあらわれてきている。

私は毎日切りぬいてノートにはり、私の周囲の人に読んでもらった。連載中でも分冊にして単行本にしてほしいと願つたら、近く上巻が発行されることになつた。ひろくみんなに読まれるようにしたい。

◇ 私は、かつて本誌第二号に農薬について書いたことが

あるが、フェニル水銀が種のイモチ病に特効があり、種を苗代にまく前に水銀で消毒することが昭和二十七年に始まつた。それから五年後には水銀による肝臓障害が日本農村医学会で報告され、また、東京オリンピックに参加した日本選手の毛髪中に水銀が六・五 P P M、農家の母親に七・三 P P M、生まれた子供に九・九 P P M 残留していた。世界に名高い水俣病は脳に八 P P M の水銀が入つて神経をおかした時発病するという。脳内と毛髪とのちがいはあれ、恐るべき事実である同志の若月俊一先生と白木博次教授が農薬に関する資料を国会へもちこんだのが昭和四十一年のことである。そして、発ガン性と催奇性のために D D T・B H C・ドリン剤などが使用禁止になつたのが四十六年である。

終戦直後から私たちは、これらのくすりをさんざん使つてきたのだから、どんなに摂生してもガンにならないわけではないと考えたくなる。生まれてきた赤ちゃんがおいしいところがあつたつて当然なのかも知れない。

◇ ホリドール(別名パラチオン)が自殺に最も使われていたが、現在は使用禁止になり、低毒性有機リン剤としてミチオンがもつぱら使われている。米の検査でシンガレセンチュウやカメムシの被害粒が入つてると下等